

その「物語」、の物語。

“ペログリ”的複眼思考の味わい vol.004

a taste of Y'sassy

田中 康夫



たなかやすお●'56年生まれ。衆議院議員、新党日本代表、作家。
'00年より長野県知事を2期務める。'07年に参議院議員に当選。
'09年8月の衆議院選挙で兵庫8区から立候補し当選。【公式ブログ】
www.nippon-dream.com/



“大人の外交”を会得せぬ限り、日本は何時まで経っても“都合の良い国”

今週の逸品



雲南キノコ火鍋 野菌10種 スッポン出汁

御膳房は雲南料理を提供。独特の雲南麻婆豆腐1780円は必食。過橋米線2280円も推奨。午餐ならば前菜・主菜に続いて雲南キノコ火鍋、更には過橋米線と点心・甘味を4800円で堪能可能なコースが存在する。10種類の雲南キノコから抽出したエキスイ出汁の基本を作り、更に烏骨鶏、スッポン、海鮮の出汁ベースを食べ手が選択し、独特な形状の火鍋で愉しむ。複数名で出掛け、供し手と献立を“熟議”すべし。

【雲南キノコ火鍋 御膳房】東京都中央区銀座2-6-5銀座トレジャビル11F
☎03-6228-6231 <http://www.gozenbo.com/>

illustration by Hajime Anzai



月刊「文藝春秋」1月号で対談を行っています。題して、仙・菅「ヤマト」の片道特攻 絶賛公開中。相手は、自由民主党の衆議院議員・稲田朋美女士。

あり得ぬ組み合わせ、と訝る向きも居るでしょう。成る程、森喜朗、小泉純一郎の両氏が会長を務めた清和政策研究会に所属する彼女とは、対極に位置します。が、大平正芳氏が唱えた「田園都市国家」の理念を共有する「保守ルネッサンス」が今こそ求められている、と考える僕と、「保守」とは特別の事でなく、家族と地域共同体に価値を置き、真面目に生きる人々の生活を守る事」と語る彼女とは、相通じるのです。哲学も覚悟も稀薄な「仙菅ヤマト内閣」の「青年の主張」では日本を過つ、と危惧する点に於いて。

その中華人民共和国が規定する、漢民族以外の少数民族は国内に計55集団。15集団は雲南省にのみ居住しています。更には克木人、阿克人、苦聰人を始めとする、民族としては認められていない小集団も合わせて1万人近く、雲南省南部の山地に暮らします。ヴェトナム、ラオス、ミャンマーと国境を接し、漢方薬の材料の宝庫として名高い雲南省は、日本の食生活の原点と評すべき米穀の発祥地でもあります。徐耀華氏は湖北省武漢の出身。

雲南省の州都・昆明で学び、中国政府外務省に入省。参事官として駐日大使館文化部に勤務後、六本木の芋洗坂で雲南料理の御膳房を開業しました。その彼が今夏、銀座に展開した御膳房は、雲南キノコ火鍋を売り物とします。滑子、占地、エリンギの定番的馴染みに留まらず、山伏茸、白靈茸、牛肝茸等も加わった野菌10種を火鍋に入れます。烏骨鶏、スッポンといった幾種類かの、滋養強壯を連想させる出汁を選択します。成る程、その中国には、改めるべき数々の問題が存在します。同じくロシアにも。が、米国や日本に限っては改めるべき問題が皆無、な苦もないのです。とするなら、笑顔で握手しながら、机の下では急所を握る「大人の外交」を日本も会得せぬ限り、何時まで経っても「都合の良い国」です。ドミトリー・メドベージェフ大統領の「北方領土」上陸を特命全權大使以下、誰も察知し得なかつた日本のモスクワ大使館。他方、中国の楊潔篪外務大臣は、ジョージ・パバ・ブッシュが米国の大北京事務所長だった時分に智力を見込まれ、一家の牧場に寢泊まりを許される程の信頼を、その後の米国留学中に勝ち取っていた人物。人材育成の一点を取っても悔しい哉、国家戦略に於ける彼我の違いは明々白々なのです。